

2011 年度特定共同研究申請書

1.応募領域 (丸を付けてください) 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 <input checked="" type="checkbox"/> 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 本所所蔵品ならびに中国国家博物館所蔵品にみる「倭寇」像の比較研究
3 新規・継続の別 (丸をつけてください) <input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続
4.申請者 中世史料部門・助教・須田牧子
5.所内共同研究者 古文書古記録部門・教授・久留島典子 古代史料部門・助教・藤原重雄 近世史料部門・教授・保谷徹 史料保存技術室・技術専門職員 (写真)・谷昭佳 史料保存技術室・技術職員 (写真)・高山さやか
6.希望する研究期間 2011 年度～ 2013 年度 (3 年間)
7.課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 本所所蔵「倭寇図巻」は一六世紀倭寇のイメージを具体的に描いた絵巻として夙に知られている。一方、中国国家博物館には「抗倭図巻」と名付けられた絵巻が所蔵されており、他にも倭寇を描いた複数の絵画史料が所蔵されているとのことである。本研究では、中国国家博物館の許可と協力を得て、第一に「抗倭図巻」と「倭寇図巻」の調査・分析をすすめる、二つの絵巻を比較検討して、その史料性格を明らかにしていく。また第二に、国家博物館が所蔵する倭寇関連の絵画史料の調査をすすめる、近世中国において「倭寇」がいかなるものとして記憶されたのかという問題について検討する。
8.研究の目的(400 字程度) 近年、東アジア海域研究の進展は目覚ましいものがあり、文献資料の掘り起こしも進んでいる。しかしながら、画像史料、それも倭寇関係のものとなると、きわめて限られているのが現状である。そうしたなかで「抗倭図巻」の発見は重要である。2010 年度の予備調査により、「倭寇図巻」と「抗倭図巻」は画面構成がほぼ同一であり、形状の面からも親近性が高いことが判明した。さらに「倭寇図巻」の高精細デジタル画像・赤外線デジタル画像撮影の結果、従来知られていなかったり読めなかったりした文字を発見・解読することが出来た。同様の成果が「抗倭図巻」からも期待できる。本研究では、最近の技術の向上によって可能になったこうした成果を活かし、二つの絵巻自体の解読を進めるとともに、

親近性の高い二つの絵巻の存在をどう理解するかを歴史的な文脈の中で検討したい。すなわち、「倭寇図巻」は従来から江南の職業画家の手により描かれたものとされてきたが、そうであるとすれば「抗倭図巻」も同一の工房で作られた可能性があるのかどうか、両絵巻が工房で作られるようないわば量産される流行の図柄であったとするならば、それは「嘉靖の大倭寇」と呼ばれる現象が、近世中国においてどのように記憶・伝承されたのかという問題にもつながっていくのである。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

先述したように、高度な写真技術による撮影成果がこの研究には不可欠である。これにより、より細かく検討するための基礎的な条件が整う。また対象とする史料は画像であるから、美術史研究者の参加により、美術史的な視点から考証を行なうことが必要である。また絵巻が描いているのは明代中国であり、明代史研究者の参加により、絵巻に描かれている風俗の検討や、倭寇たちを迎え撃つ明軍の軍制についての理解を深めることができる。さらに一六世紀江南地域・東アジア海域研究者の参加により、絵巻自身の歴史的背景を理解する上で必要な視野と専門知識を得ることが出来る。

10. 研究の実施計画

・対象絵巻の調査・分析・解説

国家博物館の許可を得て北京に出張し、「抗倭図巻」の原本調査を行い、多角的な視点からの画像分析・解説を行ない、「倭寇図巻」との比較検討をおこなう。

・国際研究集会の実施

中国国家博物館から研究者を招聘し、国際研究集会を実施する。

以上を 2011 年度中に行なう。

以下、2012 年以降の予定。

・中国国家博物館所蔵品中の関連画像史料の調査と国際研究集会

研究の進め方について国家博物館と慎重に協議をすすめ、同館の許可と協力を得て所蔵する倭寇関係画像史料の原本調査を行なう。

国家博物館と共同して画像の分析・解説を行ない、その成果は国際研究集会を開催して明らかにする。日本語・中国語での図録刊行をめざす。

11. 研究成果の公開計画

研究成果は国際研究集会を開催して発表し、研究紀要等に論文を掲載する。中国国家博物館の許可を得て、図録の作成・刊行をめざす。

12. 共同研究員にもとめる役割

・中国における原本調査・撮影・関連史料調査への参加

・所蔵史料を理解するための多角的な視点の提供と研究への参加（一六世紀江南地域における倭寇の実態についての検討・明代軍制史についての研究・所蔵品の図像学的検討等）

・国際研究集会における報告と図録に所収する研究論文の執筆。